

台桜の魅力を徹底解剖

③毎日の送り迎えて 子どもの様子がよく分かる

「毎日の送り迎えが必要」と最初に聞いた時は、正直なところ面倒だなと思いました。でも、実際に毎日園に足を運ぶことで、その日の子どもの様子を詳しく知ることができています。そこで本記事では登園する中で気づいた「毎日の送迎」のプラス面を紹介します。



担当：ささき

◇ 送り迎えの基本 ◇

登降園の仕方について、幼稚園からは
**「親子で手をつなぎ、歩いて登園しましょう。
やむを得ず、自転車を利用するときは
通行の妨げにならない場所で乗り降りしてください」**
とアナウンスされています。※バス登園は行っていません。

- ◆ **交通手段**……徒歩、自転車で登園する家庭が多いですが、台東区の巡回バス「めぐりん」や都バス、東京メトロ千代田線を利用する人もいます。
- ◆ **服装**……保護者は普段通りの服装で大丈夫です。
- ◆ **朝**……年少組の2学期までは教室の前まで、年少組の3学期からは門まで子どもを送り届けます。それぞれ先生が迎えてくれます。
- ◆ **帰り**……学年毎に担任の先生から1日の活動内容の報告や連絡が5分程あります。1人ずつ詳細な活動内容の連絡があることもあります。



雨の日は……

はい、保護者は大変です。私は毎日晴れることを切望しています。

しかし、雨の日は必ずあります。「備えあれば憂いなし」というように準備をしましょう。

子どもの雨対策について、園からの指定用品はありません。必要な物を各自準備します。

- レインコート
- 長靴
- 傘
- 自転車の場合は雨よけカバー

保護者の準備も忘れずに！

また、都バスやメトロ、めぐりんなどの公共交通機関を利用する場合は、乗降場所や時刻表などを下調べしておきましょう。

※雨の日ならではの交通マナーや歩き方を実践で覚える良い機会でもあります。
雨対策を万全にし、雨の日を乗り越えましょう！



「毎日の送り迎え」のメリットって？

子どもや園の様子を 垣間見ることができる

「先生や友達に挨拶できたかな」「子どもが育てている植物が大きくなっているな」などと、保護者の目で確認できます。

子どもの日々の変化に 気付くことができる

楽しいことがあると話が止まらず、元気がない時はうつむき気味でのんびり歩き、元気が有り余るときは寄り道ばかり……。

毎日歩くことで 足腰が強くなる

自宅が近くはないので、我が子は入園当初は疲れたと言って立ち止まることもありましたが、年中になるとしっかり歩くようになりました。

毎日先生と顔を合わせ 直接お話できる

日々変化する子どもの様子をタイムリーに先生と共有できるのは安心。手紙や電話では伝わりにくいことや些細なこともお話できます。

保護者間の交流や 情報交換ができる

「『〇〇君のお母さん』って元気に声をかけてくれたよ」など、我が子の様子を他の保護者が教えてくれることも。情報交換も有意義です。

交通ルールを 実践で覚えらるる

入園当初から比べると車や自転車に早めに気付き道路の端に寄って歩くようになりました。子どもが成長していることに気が付きます。

下の子を伴う場合、 先生や保護者、園児らに 可愛がってもらえる

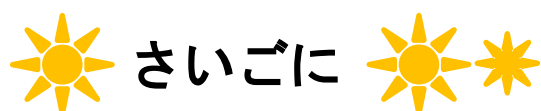
園にいるみんなで成長を見守ってくれています。また、これから幼稚園に通うイメージがしやすくなります。

小学校に通学する際の 不安が減る

幼稚園と小学校では通学路は異なりますが、幼稚園のうちに交通ルールや家の周りの道を知っておけば、小学校入学後の不安を減らせます。

子どもの安全を 最優先できる

子どもが無事に安全に幼稚園に通えることは一番大事です。行きも帰りも保護者が一緒なら子どもも安心。元気に登園する姿を見守れます。



さいごに

「子どもと手をつないで歩けるのも今のうち。幼稚園の3年間は終わって見たらあっという間」という話を先輩保護者から聞きました。

手をつないで歩くという当たり前のことも幼児期限定の尊いものなのかもしれません。

送り迎えは毎日のことで楽ではありませんが、

せつかならば子どもと向き合う時間にしようと思いを改めてみるのもいいかもしれません。

参考になれば幸いです。